

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

バイオマス(揚げ物廃油)ボイラー利用等による
省エネルギー事業

排出削減事業者名：株式会社藤田食品

排出削減事業共同実施者名：株式会社三井住友銀行

三井住友ファイナンス&リース株式会社

その他関連事業者名：株式会社洸陽電機

目次

1 排出削減事業者の情報	2
2 排出削減事業概要	3
2.1 排出削減事業の名称	3
2.2 排出削減事業の目的	3
2.3 温室効果ガス排出量の削減方法	3
2.4 国内クレジット認証要件の確認	3
2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目	3
3 排出削減量の計画	4
3.1 プロジェクト開始日	4
3.2 モニタリング対象期間	4
4 温室効果ガス排出削減量	4
4.1 採用した排出削減方法論の情報	4
4.2 活動量	4
4.2.1 活動量・原単位	4
4.2.2 活動量の採用根拠	4
4.3 事業の範囲(バウンダリー)	5
5 モニタリング対象指標	6
6 モニタリング体制	6
6.2 モニタリング対象指標のQA/QC	6
7 排出削減量の計算	7
7.1 事業実施後排出量	7
7.2 ベースライン排出量	7
7.3 リークエージ排出量	7
7.4 温室効果ガス排出削減量	7
8 省エネルギー量	8

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社藤田食品
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	但馬工場
住所	兵庫県養父市八鹿町上小田
排出削減事業共同実施者(国内クレジット保有予定者)	
排出削減事業共同実施者名	株式会社三井住友銀行
排出削減事業共同実施者名	三井住友ファイナンス&リース株式会社
その他関連事業者(注)	
関連事業者名	株式会社洸陽電機

(注)その他関連事業者とは、排出削減事業共同実施者とは別に、排出削減に寄与する設備機器の生産・販売者、国内クレジットの創出コストの低減を図る事業の集約を行う者等をいう。

2 排出削減事業概要

2.1 排出削減事業の名称

バイオマス(揚げ物廃油)ボイラー利用等による省エネルギー事業

2.2 排出削減事業の目的

食品工場は多くの熱や電気のエネルギーを使用するため出来るだけ省エネルギーを推進する必要があります。

今回採用するバイオマス(揚げ物廃油)ボイラーでは、廃油を、大豆を蒸す工程の蒸気エネルギー源として再利用し、現行燃料のLPGの削減と水銀灯や蛍光灯を高効率照明に換えることで、工場の17%以上の省エネルギーを図ります。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

豆腐揚げを製造する油が、数日使用すると酸化と汚れのため廃油となっています。

その廃油を、大豆を蒸す工程の蒸気エネルギー源として再利用します。

また、既設ボイラー750kgが2台設置のため、製造のピーク時期(冬場)や時間帯による低燃料による燃焼ロスがあるので、小さめの500kgボイラーを2台追加して部分負荷に対応した高効率運転を台数制御で実施します。

また照明設備の水銀灯とラピッド式蛍光灯器具を高効率型のものに更新することにより省エネルギーを図ります。

2.4 国内クレジット認証要件の方法

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

平成21年4月1日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2009年4月1日～2009年12月31日まで

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新
006	照明設備の更新

4.2 活動量

適用する排出削減方法論について、活動量を用いている場合に記載する。

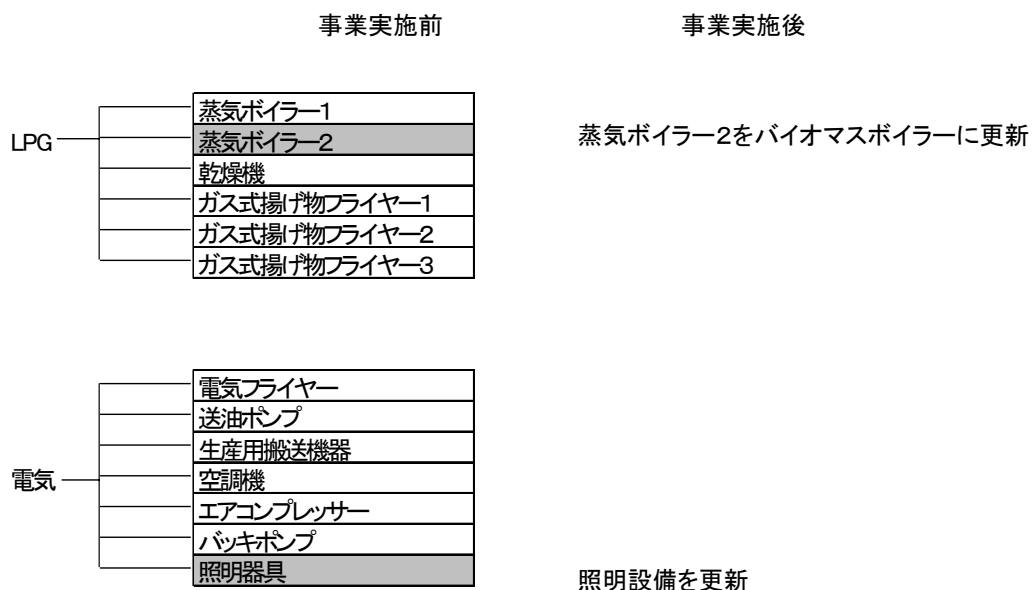
4.2.1 活動量・原単位

対象	活動量	原単位
事業実施前・後の電力使用量 (方法論006 照明設備の更新)	稼働時間	時間/年

4.2.1 活動量の採用根拠

照明設備に伴う電力使用量は稼働時間に依存する。

4.3 事業の範囲(バウンダリー)



5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画7.1項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合)変更理由
	生産数量	表(ぴょう)	11,958	仕入れ伝票	
	当該期間稼働時間	時間	1,941	稼働時間	精度確保のため時間単位に変更
	事業実施後 当該電力使用量	kWh	8,696	稼働時間 * 当該照明設備消費電力	適用方法論に従い修正変更
	換算LPG使用量	t	61.5	使用廃油の発熱量から換算	適用方法論に従い修正変更
	LPGの単位発熱量当たりの 炭素排出係数	t-C/GJ	0.01632	デフォルト値	
	廃油(なたね油)使用量	L	93,137	オイルメーター	
	電力CO2排出係数	t-C/kWh	0.0000915	デフォルト値	2009年11月2日付け「排出削減方法論について」別表に従う

なお、今回のモニタリング期間は2009年4月1日から2009年12月31日までの9ヶ月間

6 モニタリング対象指標

排出削減事業計画7.2項参照。

6.2 モニタリング対象指標のQA/QC

データの種類	QA/QC手順(該当手順の無い場合、その理由を記載すること)
活動量	
生産量	生産日報より集計・記録
稼動時間	生産日報より集計・記録
廃油使用量	オイルメーターで計測・集計・記録
LPG使用量	エネルギー会社からの請求書より集計・記録
電力使用量	エネルギー会社からの請求書より集計・記録
単位発熱量	
廃油(なたね油)	36.0 MJ/kg (NEDO「バイオマスエネルギー導入ガイドブック第2版」)適用
LPG	国内クレジット制度デフォルト値適用
排出係数	
LPG	国内クレジット制度デフォルト値適用
電力	国内クレジット制度デフォルト値適用

7 排出削減の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

7.1 事業実施後排出量

事業実施後エネルギー使用量			排出係数		CO2排出量
LPG	0	GJ	0.01632	t-C/GJ	0
電力	8,696	kWh	0.0000915	t-C/kWh	3
<i>EMpj</i>					3

7.2 ベースライン排出量

ベースラインエネルギー使用量			排出係数		CO2排出量
LPG	3,124	GJ	0.01632	t-C/GJ	187
電力	13,432	kWh	0.0000915	t-C/kWh	5
<i>EMBL</i>					191

なお、ボイラー効率については、廃油に関する適切な発熱量データを入手できなかったため、低位発熱量基準値をそのまま使用した。

7.3 リークージ排出量

本事業における方法論001、006の適用に関してリークージ排出は認められない。

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	<i>EMBL</i>	191
事業実施後排出量 (7.1)	<i>EMpj</i>	3
リークージ排出量 (7.3)	<i>LE</i>	0
温室効果ガス排出削減量	<i>ER</i>	189

8 省エネルギー量

ベースライン(①)	実績(②)	ベースライン-実績 (①-②)
83.7	2.0	81.7